

果玉新法
卷一

ル 7
3100
2

早稲田大學
圖書部
寄託者田文庫
寄託書第四二號
第 4 號
第 2 冊



門ル? 2855 卷 5-2

門ル? 3100 卷 2

萬國新話卷之一 亞細亞之部

大正七年九月廿五日 內田宗子氏贈

東都 森嶋中良 編輯

○亞細亞洲の畧説

家兄甫周法眼此譯説小曰天下第一の大沙汰亞細亞といふ。西の方「タナイス」大乃「ドウイス」杜亦撃の兩大河を以て。歐羅巴と塚分ち。ち「ミッテルラングゼイ」地中海「アデゼイ」西紅海の間に一線路ありて。此友の海地抜をりてあり。アフリカと塚を接。東の方「シーナ」支那の今支那あり



萬國新話

卷之一

一

み至了。北の方「シケイナ」小ありて。「エイスゼイ」氷海

と隣り。南「ハイシテヤ」スゼイ應帝亞海み係む幅負廣

大ありて人民繁盛あり。諸の藥品香料玉石珍珠

をとりぬ。種々の品類は産する事。他の三洲も勝

劣り三洲ありの。歐尼巴。亞弗利加。持ててく亞細亞ハ人教

肇てせし。聖賢首出の郷ありて。國土の開闢も

川とも他の諸洲み先ん此の法海ハ上ニ極めて有名

大洲あり。其域を分て六つとせ。一ハムスビ没斯箇

小属一。一ハトルロ度尔格み属一。一ハタツタ韃而韃

属一。一ハ「シナ」支那小属し。一ハ「イシテヤ」應帝亞み

属一。一ハ「バルシヤ」巴爾齊亞小属す。此洲は属する

海あり。其著志のハ「シペリ」止波里。北

「セイロ」錫蘭。應帝亞「スモダラ」蘇門答刺「ジャワ」爪哇

「ボル子」勃泥「セシ」食カ白私「マロコ」馬路古「バシダシ」

番打「ギロ」及勒々「ロソ」呂宋等あり。吾大日本國

も。亞細亞洲中の一大勝地あり。

○屋を車み駕韃而韃

韃而韃國中ハ大なる城郭宮室細紋けを屋を

車乃上み造りて。居所をうり。其後村とせ

家見の釋説小い。此中縣邑村落を分て

萬國新語 卷之一

此國中、東北の方此土人。父母將死せんとき、時ハ、
 則殺して是を食ふ親の恩をおりむ腹中
 の外、不葬す。いふせに丘障の下に埋る。不忍む。
 去る依りて腹中を葬ると。明人の伝

○葬送み人殺す 得白得

又西小の一種小テヘテ 得白得 とつ小國あり至大の
 剛國あり。其俗國王の死後輿棺て葬送すも
 一途中にして人よあふ耐ハ、くらむあはれは是ハ
 殺す。唱ららく死して其王小事ふまられと。
 一王の葬れ乃時。人を殺す。万計あり。

計一とあり。

○女國 亞瑪撒榻

往昔韃の西小ありて女國あり。アマサ子 亞瑪作
 とつ小のりとも號勇ありて戦を各を嘗て
 司へス 厄弗俗 とつ小。一の名都沙責破す。其地
 小廟祠を建。基址を湖中み築く。高約
 四十四丈。寬二十丈余。内は白石の柱。大抵一百
 五十七株。なとら。各高七丈許。祠の内石像
 沙安並す。祠乃四面は四つ此門あり。其門毎に
 白石をりつて造り。橋を架る。正門の前

應帝亞國ハ即チ天竺五印を度あり果實を多し。凶年饑饉と

しども。玉俗も果實を以て食ふを絶て饑

渴の患あり。此地真珠玉石此の邦ヤクワン香料を

産す。天が下を至用する不大半此玉此邦所

あり。さらによきて西岸の人稱して天下の園圃

とす。此の漢文あり。案らよ吾邦の俗漢。大坂八日。玉中の基所不

○服傍 同上

昭代叢書中小収ヤひる不の外玉竹枝の詞よ。

寶髻青螺錦鬪裁云々

注又云。五印度の玉王ハ錦鬪カキケ後す髻ハ螺ウツのめく

結アサひ。此の竹アサ髪ハ下カ垂るとあり。案らよ。是ま人の俗あり。ベ。婦人の衣裳ハ

又明人の説アサいづく男子ハ衣カ此カ僅カ

又尺カむりハ布カをりりて綺カのカ掩カひ。女人ハ

布カを。以て首カよカと足カすカて纏カふとあり。是ハハ後

○王の子ハ立カむ 同上

明儒カ沃カる不カの万國圖説カいカく。印カ牙カ亞カ玉カ中

乃士農工賈ハ皆カその業カを世カみす國王ハ父子カおカ續

るカか。其婦カ妹カ此カ子カハカりカて嗣カとカか。王

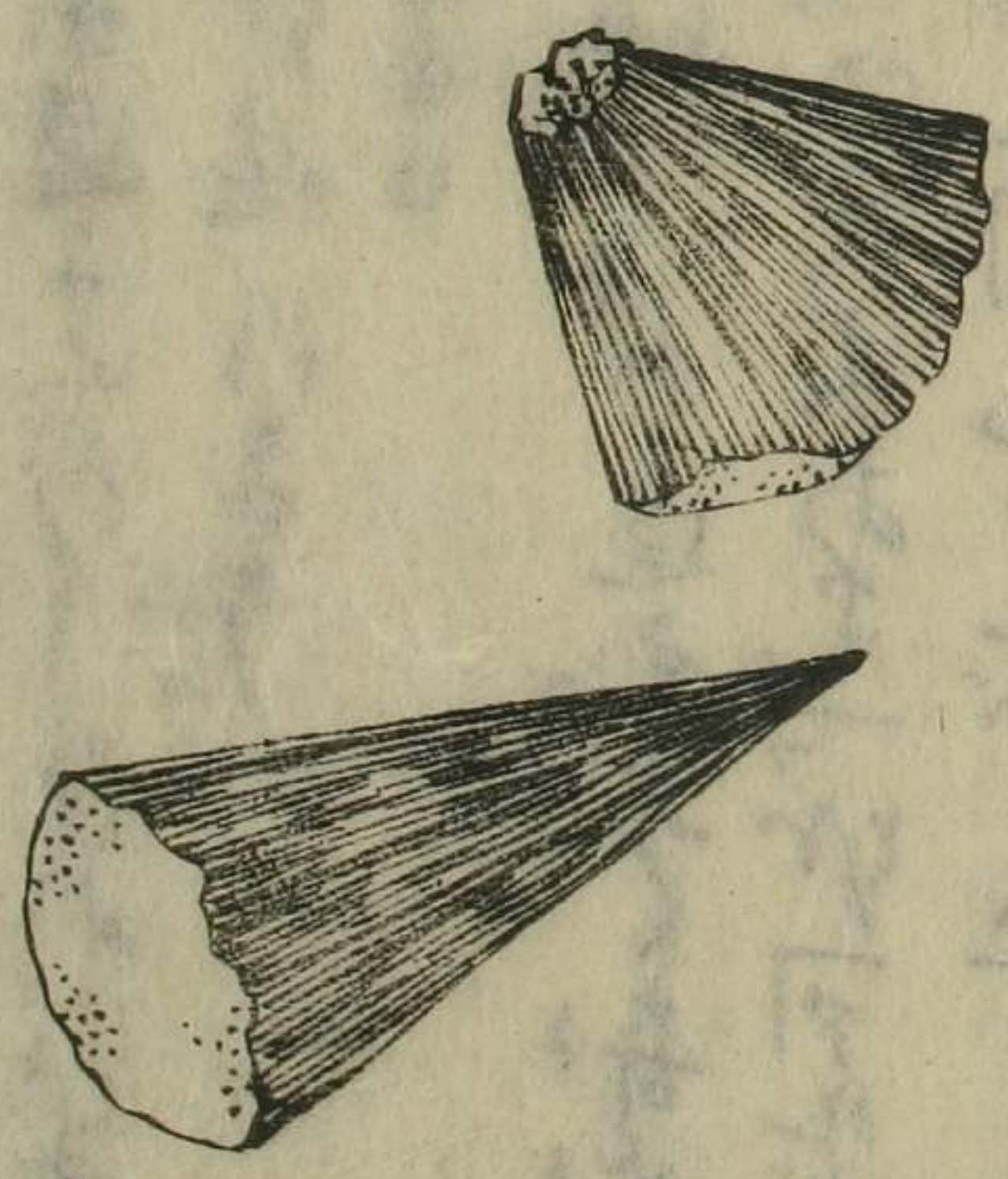
の子ハおカむ此カ福カを給カして自カら贍カとカふ。新井

先カの采カ覽カ異カ言カふも此カ況カを裁カらカる

○ブルトステーン 同上

印弟亞國中「マリス」麻刺襪に屬する。「カナール」と
 して地を一種の石と考へ、紅毛語にて「ブルトステーン」ブルトハ血ステーンハ石あり。「ラティ」羅甸ハ
多。クリハ西洋奇。又考ふる石の名は「カナール」カナールともいふ。石の質代赭石に似たり。孩推を
 以て撃破一顆ごと尖る形地を破目ハ針と
 束るるぬくの縦紋あり。金瘡血。他身を
 血をおもとの鉄石心小握る時ハ倏忽血
 かるむ。又出る所の鮮血鉄石を削りて振り

ブルトステーン之齒



まば。石を隔つとして。血の多し。中林の如し。此物の外。万玉と名づく。葉品の形状。伯氏著。石の和蘭茶選より。これに書中。ハ。く。い。ら。ま。し。ハ。法。は。あり。

○根樹 東應帝亞

「ヨーストインデヤ」東印度の途に多く奇草奇木と名づく。就中二つの異木あり。一ハ「アルボルテラ」イ区と名づけ。又「タルテルボム」と名づく。紅毛語を根樹と名づく。其始生の時。他の樹木に異なる。葉あり。さて長くとて後。

枝の上は細條を生じ。縷々として下り。垂地。よれ。む。ま。か。り。ち。根。と。生。じ。年。が。経。ぶ。と。こ。て。本。幹。と。異。り。か。り。如。此。の。数。が。き。り。か。く。連。結。志。て。巨。る。る。林。の。如。し。枝。葉。蔭。々。と。して。高。天。小。参。り。る。周。圍。二。里。不。及。ぶ。と。の。所。り。枝。毎。又。皆。細。條。を。生。じ。飄。揺。し。て。地。に。垂。を。り。是。の。如。し。め。む。細。繩。を。掛。け。る。か。如。し。球。形。花。中。の。説。あり。伯。氏。の。説。を。榕。樹。の。所。り。中。良。葉。の。如。し。俗。に。画。ぐ。不。の。万。玉。人。物。の。如。し。本。の。枝。木。は。皆。の。生。る。所。あり。と。て。画。ぐ。物。ハ。根。木。を。画。す。ハ。名。を。ま。す。り。と。し。て。あり。又。云。此。樹。林。を。か。ん。叶。ハ。枝。葉。上。に。お。を。り。て。屋。宇。を。真。ら。す。と。國。俗。と。の。下。に。住。居。る。と。の。あり。大。なる。林。

根樹之圖

「ト々ヨ一区 紅毛本草 に載る所の 圖あり」



同弱木之圖

「我後室小極の ところあり」



哀樹之圖

「ドクシー」の樹



小いりてハ千餘人を坐せしびて其樹の中。
 原幹ぬぎえ又を以てハ斬きて以て佛子供を菩薩樹と
 名づくくとあり。明人の説を以て我家の後園うゑに
 樹を植うゑ花咲びて実如結ぶそどめ枝子
 芽出めの如くある小サキ瘻ふを生じ日如経かろ不
 志しひてとくくと大いなるを遂つひに將指かろ
 の形不しとある実とあり形無花果いちぢくの如くありて
 色黒く紫色の斑点あり。ソ等弱樹ろくある枝上
 の細條こ地ぢよりす。

○哀樹 同上

又一種の奇木あり。アルボルデリス区と名づけけ又「ドロヒケボーム」と名附。垂語して哀樹といふ義あり。其花昼にらうらうと夜に至ると始て開く。其樹日中、枯る如く日没て四半時をくれば後卒然と満樹花が萎れ、葉も凋落し見え不飽を其香芬々として愛するは樹より通宵かくの如くありて曉ふれば盡く地も腐ち枝葉も亦枯委む。夜々としてあるはやく数年経て明人の地球各説不ハ陰樹とあり

○安日河 同上



東應帝亞ハ大河あり。カシゲ区安日と名づく。其人のらく一夜去の河あり浴する時ハ此所の飛業ことごとく消除せし。からが急ハ五印度の人咸かいて沐浴し。こゝに於てハ飛障ハ消滅して天又生をうらんを祈るとあり。此邊の人ハ皆四元形をまじるとあり。四元形の事ハ紅毛雜話より見。家兄の考に曰。此首陸塞安石園よりいりて。柘榴子が帯束る此故ハ安石板といふといふ。安石國ありとのハ即去の安日河をいふあるべし。安石安日音おあし。

○南印度の異

コイドインテヤ南印身の地勢三角形をなす。其末の鏡
 なる閣サガが約百歩をぐる。東西相去るをさ
 がおよ。氣候は冬あひえんにおお反り。東の方より海をむ
 西の方へ霽天あり。其地をぐるに。彼地が
 らむに。北に彼方へ大風海を吹て。洪波天を散
 ふ。如くあり。此方へ漣濤を立て。て平地
 の如く穏あり。あれ南印が亞の志異とする
 あり。明人の説

○バサル 附 東志真珠 巴各奔亞

「バルシヤ」巴各奔亞國より玉石。駿馬。絨緞を出し。又海
 の「バサル」把雜尔。扁千。鮫。其。俗。不。馬。也。を産す。其物ハ「バ
 ア」鹿。の。形。羊。の。一。く。鹿。又。似。す。と云ふ。其の後にをむ。其のあり。
 此國の海中。「イルムス」私。心。魯。護。「ハワラ」等の鴻をを
 おも。其れ其珠を。西岸より。東方真珠と稱し
 て。殊に貴き。其他「バシム」カ。シ。「ユルハ」等の
 諸島も。亦多く。出れ。其の各不。採得する
 其の皆「イルムス」又輸を。土人あ。ん。ん。裸體。あて。腰に。さ
 籃う。ご。を。着。海中。不没。を。二十。尋。餘。た。ち。あ。り。
 海。底。より。出。り。真。珠。母。や。撈。出。日。中。不。あ。れ。を。晒。

其の目れ口おのりく異れ候て。多珠と取るとあり。伯氏の説

○彌樓臺附 廉角臺同上

當時百爾舒亞國王一ツの臺ハ建テ是ハ鞞ハ揚テる
不レの回々國人の以テ聚リて築クとのあり。回々國の子
中ハ不レ説あり。東ハ足リて西ハ洋ノの
地名又ハ地名あり。又ハ大ハ不レ獵シて一ハ圍ニ廉ハ角ハ
獲テ事ニ三ニ万ニ其ノ才跡と後世不レ傳ヘん。廉角
と集メりて臺トなり。今ハ不レ存セり。明係説
万國是レ也
中ノ説

○天下ハ戒指とす同上

都兒格人之圖

紅毛縷板の万國地圖を以て各國の人物を以て
眉中ニ載スる也



都兒格ハ世界才一の法玉なりて。
併シる不レ亞細亞
亞弗利加。歐羅巴の
三大沙ハの
分テて亞
細亞都
兒格。歐
羅巴都
兒格。亞弗
利加都兒格と云ふ。和法
と云ふ。今ハ我レ國ニヤリテ
諸ハ甚
患トす。其ノ包スる。其ノ道ハ。モゴルハハルニ也
等の國也。皆ハ其ノ用也。不レ不レ。ハストロイハ区トなり。鳥ノの如クあり
手ハの如クなり。と云ふ。易ハ筋ノたがひ。人トを指揮
するものあり。

護送軍之圖

同上



巴爾齊亞海中明人の黙生丁海と稱するものの是あり。勿心魚日謨斯小島ありとていへも。亞細亞。歐羅巴。亞弗利加の中央より。みづゆに。三大沙の富高大賈はね不往來す。わがわがひかりをへい。集一人烟輻輳也。海内の珍奇ちんきもろく致し。ぐさたのありとも。袋の物ものも。よくいと安くも不入し。我土人のらく若天下。此一の戒指ゆびわふたとく。吾勿心魚日漢斯ハ。戒指ゆびわをくもる。宝石たからいしは新勿あたらべ。と自負まするとあり。
 明人の脱

○護送軍附駝之脱亞刺皮亞

と。紅毛少て「カラハ子」にして、譯して渡送軍
 とし、義あり。ト、トの畧説あり。明人ハ「カラハ子」
 防寇と譯せり。海沙場を行つ腕を用ひらば
 此獸百歩目の花所を——とせず。昼夜馳て芳々
 して走つて、其脚長キが、沙漠に於て是れ
 よう。一、果、麦、粟子の大、芋魁を以て、五つ
 六つ食し。又乾草を齧。六十日と云ふや、
 一、反、飲、後中能み、行つて、
 の中、水よ、走、き、味ハ、後と、割、て、み、
 冷めて、飲、不堪、其、骨、肉、皮、毛、ごとく

く、茶、用、小、元、形状、主治、和、蘭、茶、選、小、詳、あり。
本州の、説ハ、甚、粗、あり 紅毛、倍、少、て、「カ、ネ、ル」と、し、
 テ、レ、ロ、と、し、天、絨、織、の、ぬ、き、毛、布、ハ、 此、物、素、ら、る
 以、て、織、ら、る、物、の、よ、さ、り、、ハ、甚、益、ある
 歎、あり。吾、邦、少、も、小、カ、ネ、ル、馬、の、か、、り、、子、を、ひ、
 之、の、を、用、、ハ、テ、レ、ロ、、ハ、童、人、の、、靴、
 料、此、織、物、を、好、、る、、人、、烟、包、、揆、
 以、て、料、、と、、事、

○莫卧爾國

明儒の悦又曰。五印度の内。南印度の古は

みて其條の四ハ皆莫卧爾小倭をらる。其の西
 西印度此王兵五十万。馬千五百。象二百餘。其
 莫卧爾の軍を禦ぐ。其象の脊ハ一ツの臺
 と負志む。内小軍卒二十人。其容魚イサ。其
 鳥銃千門のち大ある。其の四門うちのち大銃おのあり
 りのハ牛二百餘あり。其の門うちハ一門うちハ其
 其外百万の軍實あり。其の門うちハ一門うちハ其
 と其とも。遂ハ勝事あり。其の門うちハ一門うちハ其
 魔下まハ其東あと。其の門うちハ一門うちハ其
 莫卧爾人の昔ハ紅毛画の臨写あり。其の門うちハ一門うちハ其

小曰其人赤髮紺瞳あり。男女皆白紙布をりて
 其の門うちハ一門うちハ其
 莫卧爾國の華英小及ぶ。其の門うちハ一門うちハ其
 其の門うちハ一門うちハ其
 大抵其の門うちハ一門うちハ其
 毛織と稱する。其の門うちハ一門うちハ其

○石人 純多理亞

ナトリヤ納多理國ハ山あり。多く瓊たまあり。國人
 其の門うちハ一門うちハ其

建ハ石人教がなるをくわくけりける。是昔時^{その}刻^{とき}を
避^さぐる民^{たみ}はく^く不^ふ究^{くわう}居^く志^しするが死^しして後^{のち}をな
は^は深^{ふか}や^やる^る化^{くわ}して石^{いし}を^をあ^あり^りと^とし^して^て
予^よ先^{せん}年^{ねん}垂^{すい}書^{しよ}を^を見^みし^し肉^{にく}よ^よ大^{だい}なる^{なる}石^{いし}窟^{くわく}の内^{うち}に
十^{じゅう}字^じ形^{けい}ふ^ふた^たる^る死^し人^{にん}数^{すう}百^{ひゃく}立^たて^てを^をあ^あり^り人^{にん}の^のま
て^て其^{その}死^し骸^{がい}が^があ^ある^るぬ^ぬう^うの^の毎^{まい}の^の画^え畧^{りやく}を^をえ^える^る
書^{しよ}の^の名^なも^も忘^{わす}れ^れる^る。あ^あれ^れ彼^{かの}石^{いし}人^{にん}の^の畧^{りやく}を^を
し^しや^や越^{えつ}後^ご地^ち國^{こく}ふ^ふあ^ある^る名^なの^の弘^{こう}智^ち法^{ぽう}印^{いん}も^も石^{いし}人^{にん}
の^の一^{いっ}種^{しゆ}あ^ある^る。

○^{うしよまき}跨^ま海^{うみ}石^{いし}梁^{りやう} ^{同上}

那^な多^た里^り亞^あと^と。都^と見^み格^{かく}の^の泉^{いづみ}海^{うみ}を^をり^りつ^つて^て海^{うみ}つ^つ其^{その}間^まに^にて^て
と^とし^し。む^むし^し。那^な多^た里^り亞^あ王^{わう}失^{しつ}尔^る塞^{さい}る^るか^かの^の大^{だい}河^が
土^ど石^{せき}の^の功^{こう}也^や真^{まこと}し^し。海^{うみ}に^に跨^{また}る^る石^{いし}梁^{りやう}を^を加^かへ^へて^て支^し地^ち
を^を通^{つう}連^{れん}す^す後^{のち}代^{だい}ふ^ふる^るり^りて^て風^{かぜ}浪^{なみ}は^は衝^つ撃^{げき}せ^せれ^れ其^{その}
梁^{りやう}頽^{たふ}廢^{はい}せ^せし^しと^とい^いふ^ふ也^や。 ^{明人の説}

○如^{にょ}德^{とく}亞^あの^の國^{こく}史^し

明^{めい}人^{にん}の^の説^{せつ}よ^よし^しく^く天^{てん}下^かの^の諸^{しよ}玉^{ぎよ}に^に。上^{じやう}古^この^の事^じ跡^{せき}を^を
記^きす^する^る史^し多^たし^しと^とい^いふ^ふ也^や。を^をき^きこ^この^の八^{はち}千^{せん}年^{ねん}を^を記^き
す^する^るも^も二^に四^し千^{せん}年^{ねん}ふ^ふる^る也^や。其^{その}史^しを^をわ^わく^くら^らせ^せ記^きす^する^る也^や。
て^て訛^{おとまり}謬^{まう}多^たし^し。 ^{如德亞} 國^{こく}の^の史^し書^{しよ}ハ

完辟くわんぱくよりして六十年来。世々の史官筆と絶た。歴代れきだいの事實じじつ著述しゆしつを記す。委曲わいきく分明めいめいにしていさくも脱漏だつろうあり。

○的里亞加 同上

如德亞の西小國あり。達馬斯谷と云ふ。土人どじん一藥と製え。名あり。的里亞加と名づく。能百病を治す。先まづりく此毒を解げん。此藥このくすり試たまひふ。先まづり毒蛇どくへびを覓みりて。身体しんたいと咬傷くわうきやう。先まづり毒茶どくぢやして腫脹しゅちやう時ときの葉はサー許ゆるみ嚙くはふ。昂あがり愈よくしつる。か。各國こくごくよりして珍異ちんいとす。明人の説せつ本草綱

目小底野迦めいせいのや苦寒あり。て毒あり。百病中惡。客將。

邪氣じやき。心腹痛。積聚しゆくくと治す。集解しゆくげ小蘓恭曰。

西戎せいじゆうより出いつ。彼人かじんよりく猪膽しゆうたんを用もちて。此れ沙

伯はくと。形かたち久壞くわいの丸葉わんはつ不ふ似にて赤黑也せきくわいあり。桂山先生けいざんせんせいの説せつ曰。

華人わにじんのいさや。久壞くわい丸葉わんはつ。昂あがり愈よくしつる。彼人かじんハ猪膽しゆうたんを用もちて。胡人こじんよりくたが

さく。甚おそろく此沙このさ伯はくを用もちて。効きうあり。

と載のり。此仙丹このせんたんハ西岸せいがんの人ひと。常つねに用もちむ。不ふ死しして。

起死回生の妙薬あり。吾邦わがくにあり。白く。重おもく。此

齋さい來きたること。と覓み得えること。極たぎめて

湯ゆ易やすくする。煉れん茶ぢやあり。ワグわぐ不ふ瘡そう瘡そうの死しふこと。

者小而己とらむ事として。功を他病に試むる
 物ありて真物にまればなりといふも支を尤も
 時あるは二十年来。前野蘭化先生のいさ言ふ
 ようにして。東都の諸子重書を後得るものあり
 てより。「旨イ」尺骨の名 小裁る所の的里亞加方を翻
 訳し。紅毛人「テリアカ」ドロマア也 其の上辺は西客の口授を
 受て此茶を製し。志むく経験する事を得ず
 つら偏是 いよきん 昇平の巨澤あり。的里亞加諸方

の中。一「種此」アルムテリアカあるものあり。アルムハ
 重語貪いんの義あり。是茶制はるものもくま
 りて志るも。其功上好の薬品多味を調へて製
 たるものたがう。尚且重人の携来するものと試
 みる。大半「アルムテリアカ」あり。其巨細を弁するは
 り。此も。此より諸豪傑重書を訳し。牡丹茶
 を製する事を得る。依るあり。豈愉快なる
 るふあり。我亦常々製して持施し。あま
 りく是を經驗するに。舶来のものとかぐるは。

萬國新語

卷之一

二十

人を一して沈^{スグ}き^スひ^スる^スよ。入^スり^スて^ス止^スぬ^ス海^スの^ス日^ス
 に映^スぐ^スれ^スハ^ス五^ス色^スの^ス文^ス彩^スと^スあ^スす。そ^スの^ス海^ス中^ス水^ス族^ス
 を^ス生^スぜ^スる^スふ^スよ^スと^スて^ス死^ス海^スと^ス名^スづ^スく^スと^スあ^スん。紅^ス毛^ス
 人^スハ「ド^スー^ステ^スゼ^スイ^ス」と^スい^スふ。「ド^スー^ステ^ス」ハ^ス死^スの^ス人^ス「ゼ^スイ^ス」ハ^ス海^ス
 の^ス中^ス良^ス案^スの^スに。此^ス海^スの^ス石^ス腦^ス油^スの^ス一^ス種^スの^スべ^スー^ス。石^ス
 腦^ス油^スの^ス者^スハ^ス大^ス脈^ス又^ス高^スの^ス地^ス中^ス小^ス瑤^ス珀^スを^ス生^スず^ス
 其^スの^スく^スを^ス溶^ス蕩^スて^スけ^スる^スの^スと^スる^スべ^スー^ス。垂^ス涎^ス耳^ス
 及^スべ^スり。

萬國新話卷之一

